

伊勢本街道

伊勢本街道の概要

大和国と伊勢神宮を結ぶ街道で、別名・参宮本街道、伊勢中街道とも呼ばれる。街道沿いには、古代祭祀遺跡も多い。三輪山（奈良県桜井市）と斎宮（三重県多気郡明和町）、伊勢神宮を結ぶルートは、北緯34度31分の線上にあり、いわゆる「太陽の道」との関わりがあるという俗説もある。飛鳥・藤原時代には大和と伊勢神宮を結ぶ重要な道であったが、奈良時代には、初瀬街道が利用され、平安京遷都後、鈴鹿峠越えが主流となると、一時期衰退した。

しかし、南北朝以後、伊勢国司北畠氏が現在の津市美杉町の多氣に館を構え、多くの武士団が居住し、初期城下町を形成すると、その城下を通る伊勢本街道が再び重要視されるようになり、伊勢参宮者の増大にともない、多くの人々が行き交う街道へと変遷していく。北畠氏滅亡以後も宿場町の機能は残り、伝馬所が置かれ、江戸末期には旅籠も9軒ほど存在



したとされている。

また、この街道は、大和から伊勢への最短コースにあたるが、けわしい山道が多く、旅人に恐れられた。本居宣長の紀行『菅笠日記』には、宣長が大和の旅を終えた帰路、榛原で一行に本街道越えを指示した際の様子を描かれているが、一行はこの道を通るなど考えただけでも恐ろしい、とふるえあがっている。

しかし、神代の昔に倭姫命が天照大神鎮座の地を求めての旅に関わる伝承も多いことから、“神の御心に叶う”として多くの参宮の旅人に利用されたのである。

明治に入ると、街道の改修、新道建設が盛んとなり、馬車・荷車が通行できない峠道の改修、迂回路の建設が各所で進められた。以後、雲出川上流域と伊勢・松阪方面を結ぶルートとして利用されたが、大正年間、津から雲出川上流域へのバス路線の開通、昭和10年名松線の開通などにより次第に衰微した。当街道の奥津（津市美杉町）～横野（松阪市飯南町）は国道368号になり、漸次改修されている。旧宿場町に残された道標や常夜燈、古い町並みがかつての姿を今に伝えている。



櫃坂峠。飼坂峠。難所を通る参宮の道。 伊勢本街道



津市

松阪市

明和町

玉城町

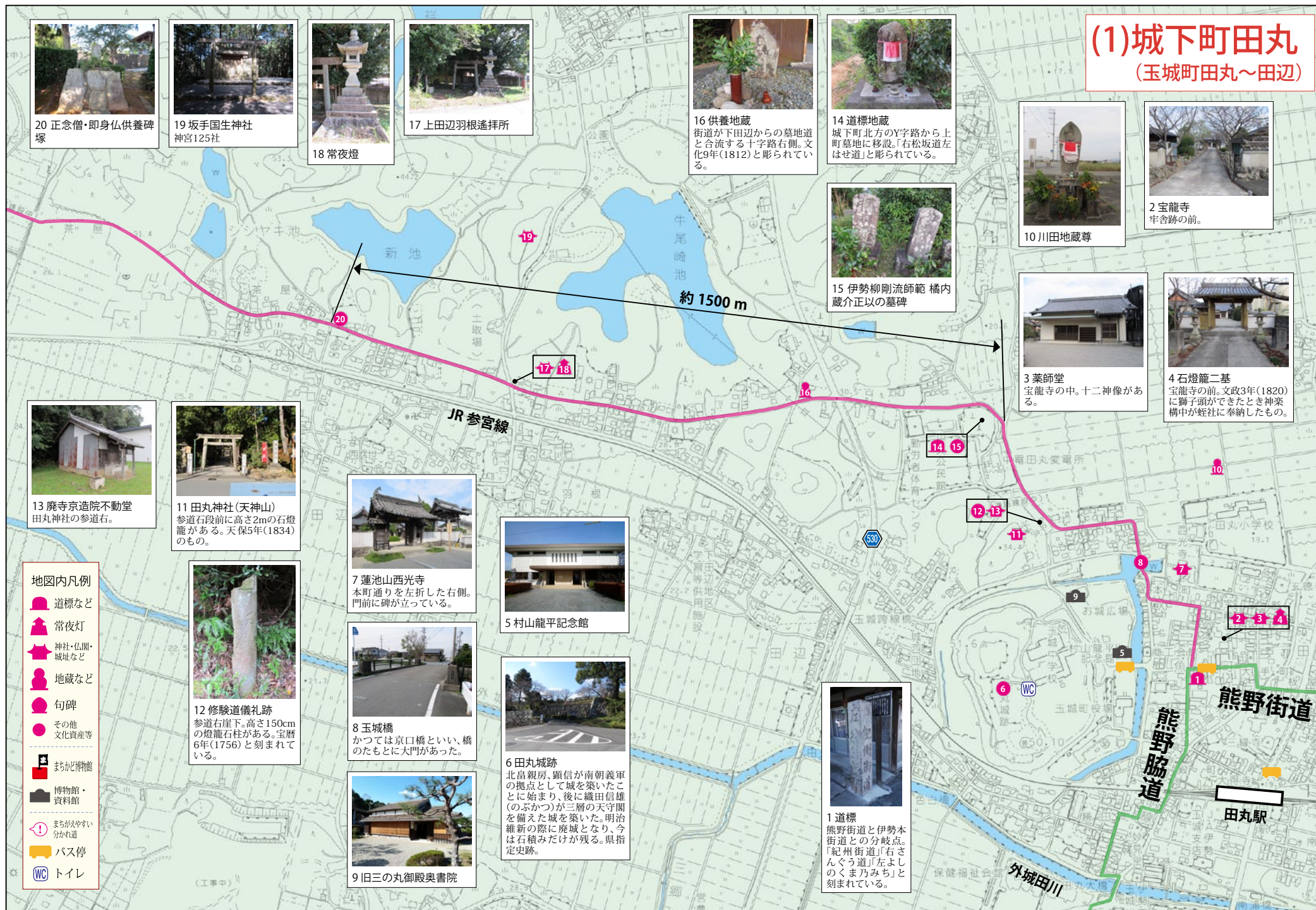
伊勢市

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちがど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

歩く速さで見えてくるものがある。
 歩くからこそ出会うものがある。
 いにしへの旅人の速さで、視点で
 歴史の道をたどってみよう。

◆ 目次
伊勢本街道の概要
伊勢本街道のルート
(1) 城下町田丸
(2) 土羽茶屋
(3) 池上
(4) 相可
(5) 井内林
(6) 津留
(7) 小片野
(8) 大石
(9) 横野
(10) 長瀬
(11) 櫃坂峠
(12) 立川
(13) 多気宿
(14) 奥津宿
(15) 石名原
54 52 50 48 46 44 42 40 38 36 34 30 28 26 24 22 20

(1)城下町田丸 (玉城町田丸～田辺)



(2) 土羽茶屋
(多気町土羽)

約 1000 m

約 1200 m

約 1000 m

工場
の
フェンス
沿い
を通る

10 石柱・純固の碑へ向かう道

9 純固(すみかた)の碑
石柱の奥にある。表面には、
海防に砲術の習練が火急である
旨が刻まれ、裏面には
純固を称える漢文が記されている。

8 石柱
「田丸藩砲術練習場跡」と刻
まれている。幕末、田丸城8
代城主久野純固の開いた砲
術練習場。

4 荒木田守武句碑

5 達原華村句碑

7 宮城きよなみ句碑

6 上村点魚句碑

3 切り通し
棒原神社裏手から土羽茶屋
の間。伏し拝み坂あり。

2 両宮通拝所献燈

1 棒原神社
御祭神は天須婆留女命で、
荒木田氏祖先の墳墓と言わ
れる。神宮125社。

雑木林

街道は JR
参宮線と平行に裏道を通る

JR 参宮線

外城田川

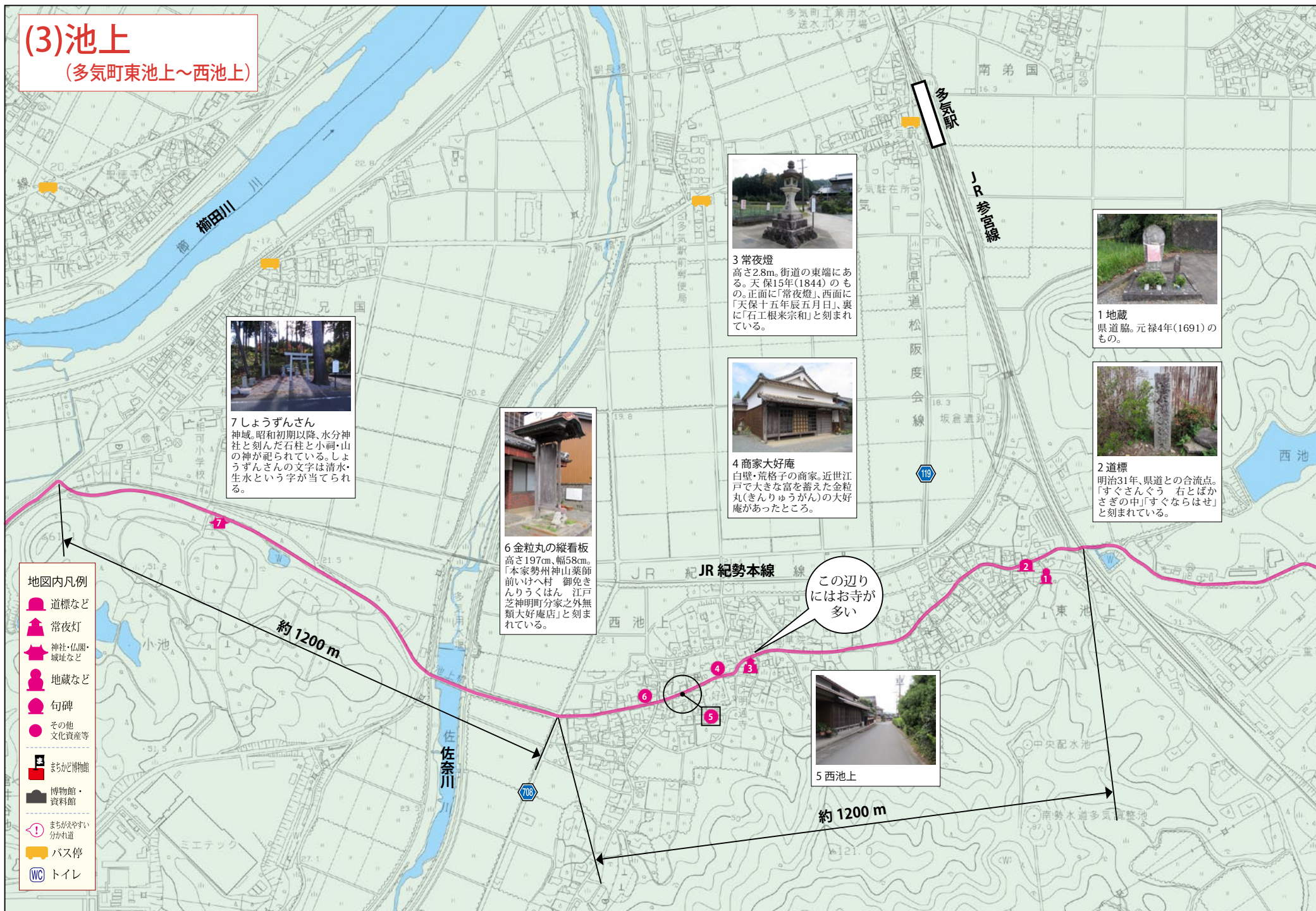
外城田駅

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地蔵など
- 句碑
- その他文化資産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ

(3)池上

(多気町東池上～西池上)



(4)相可・A

(多気町相可～四正田)



10 両郡橋



11 国分家(射和)



2 伊佐和神社



1 中万町町並み



12 射和文庫

この部分は
33 ページを
ご覧ください



4 大日堂
浄土寺の境内にある。かつては大松屋こと地主平九郎という旧家の中にあった。



3 眞盛文庫(浄土寺)



5 地藏菩薩坐像
浄土寺の石垣の麓。「三界萬霊」と刻まれている。



6 おんばさん
櫛田川への下り口にある。百日咳に霊験あらたかな乳母神。



7 鹿水亭
明治中期まで車屋という屋号だった。



8 広小路
越後屋が取り壊されて、変則的な広い三叉路になる。



9 相鹿上神社



13 みなとや
鮎の甘露煮を販売。



16 長新本舗
相可名物のまつかさ餅を販売。



15 道標
高さ1.5m、幅22cm。「伊勢本街道」「すぐなはせ道」「右くまのみち」「文久三癸亥十一月建之」と刻まれている。文字は和漢の学に通じた三谷善山の筆と伝えられる。



14 札の辻
少し広い三叉路。昔、ここで盆踊りをしたので「踊り場」が通称。

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがえやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

(4)相可・B

(多気町相可～四正田)



2 延命寺
山門は松阪市指定文化財。



1 伊馥寺



9 千鳥ヶ瀬
鎌倉時代の歌人西行法師が伊勢詣の途中に詠んだ歌に「つかれぬる 我を 友よ 千鳥ヶ瀬 こえてあふかに たひねこそすれ」というのがある。以来この地を千鳥ヶ瀬と呼ぶようになった。



8 常夜燈
伊勢本街道最大級。県道の整備で移設された。弘化2年(1845)と刻まれている。



6 燈籠
塞の神の前。寛政4年(1792)と刻まれている。自然石。



3 棕の大木
塞の神と燈籠のそば。老いた藤が巻きついている。相可の名所。



5 西行法師の歌碑



4 塞の神
千鳥橋の手前。集落への疫病の進入を防ぐと言われる。



7 千鳥橋
この付近を千鳥ヶ瀬という。

- 地図内凡例
- 道標など
 - 常夜灯
 - 神社・仏閣・城址など
 - 地蔵など
 - 句碑
 - その他文化資産等
 - まちかど博物館
 - 博物館・資料館
 - まちがしやすい分かれ道
 - バス停
 - トイレ

この部分は
30～31ページを
ご覧ください

(5)井内林

(多気町三足田～鍬形)



13 すばらしい河川景観



9 道路元標
井内林の集落が切れた辺り。「津田村道路元標」大正12年3月と刻まれている。



8 石碑
街道左手「南无阿弥陀仏」と刻まれている。高さ約1.4m。



7 津田神社



1 歯痛地藏
歯が痛む時にこの地藏にお祈りをすると効果があると伝えられている。



3 伊勢イモ歴史資料館



12 佛足跡
不動院前。自然石に佛足跡が刻まれ、その下に「経に此相を見れば千劫の重罪を滅すと云へり」とある。足の病に御利益があるとして、わらじがかけられている。



11 不動院
境内奥には不動滝がある。



10 自然石の道標
左手に入る山道の角。「左丹生大師道」安永6年(1777)と刻まれている。



4 伊勢三郎物見の松
現在は五代目の松が植えられている。



5 廻国供養塔
伊勢三郎物見の松の跡地横。行き倒れ道者の死を哀れんだ。高さ約1m。



6 いぼ地藏
廻国供養塔の横。いぼがでけると参り、治ると七色菓子を与える。



2 小園汲古句碑

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地藏など
- 句碑
- その他文化資産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ

約 600 m

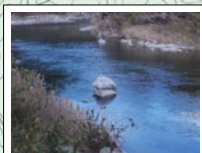
約 1400 m

(6)津留

(多気町鵜形～松阪市下茅原)



10 自然石の道標
「右さんくう 左まつさか道」と刻まれている。



9 はかり岩
渡しの川中にある。平成22年に復元された。この岩によって水のかさを計った。



11 六字名号碑
昔の茅原の船着き場。自然石に「南無阿弥陀佛」と刻まれている。



14 庚申塔
県道から別れ南へ少し進んだところ。貞享5年(1868)に寄進されたもの。



12 浅間常夜燈
茅原神社境内にある。高さ214cmの自然石。天保14年(1843)に寄進されたもの。



13 愛宕常夜燈
浅間常夜燈の横。高さ223cmの自然石。天保10年(1839)に寄進されたもの。



5 用水池
自然湧水を利用。昔旅人は喉を潤した。地元の人、今でもそこで野菜を洗っている。



6 道標
丹生へ至る道を挟んだ西角。津留の渡しから来た旅人が見る。昔は、反対の東角に立っていた。高さ70cm。「左いせ道」と刻まれている。



7 道標
道標の横にある。高さ60cm。「右大師道」と刻まれている。



8 津留の渡し



1 道別れ地藏
江戸中期、十字路の東北角「右いせみち 左まつさかみち」と刻まれている。



2 道別れ地藏
「右はせみち法尊 是□□ 左にうみち秀尊円清□□」と刻まれている。



3 行き倒れ地藏
道別れ地藏の横にある。



4 廻国供養碑
行き倒れ地藏の横。「はせ迄十七里□□」と刻まれている。

伊勢自動車道の高架をくぐったらすぐ右へ

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地藏など
- 句碑
- その他文化資産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ

(7)小片野

(松阪市下茅原～小片野)



4 北谷池
天保4年(1833) 11月に起工、人夫2万2076人を労して、同6年7月に竣工した。別称観池、鳥羽見池とも呼ばれる。



3 道標地蔵
追分橋のたもと。半肉彫りの石地蔵「右山田六里 観照 左松坂三里辨應」と刻まれていたが、左上部は欠損しており判読できない。



1 常夜燈
文政13年(1830) 集落中心の三叉路から上茅原神社に移設。「天下太平 両大神宮 五穀成就」と刻まれている。



2 道標
三叉路に道標の頭部の残骸が残されている。

ここから横野まで、和歌山街道と同じルートをとる

約1000 m

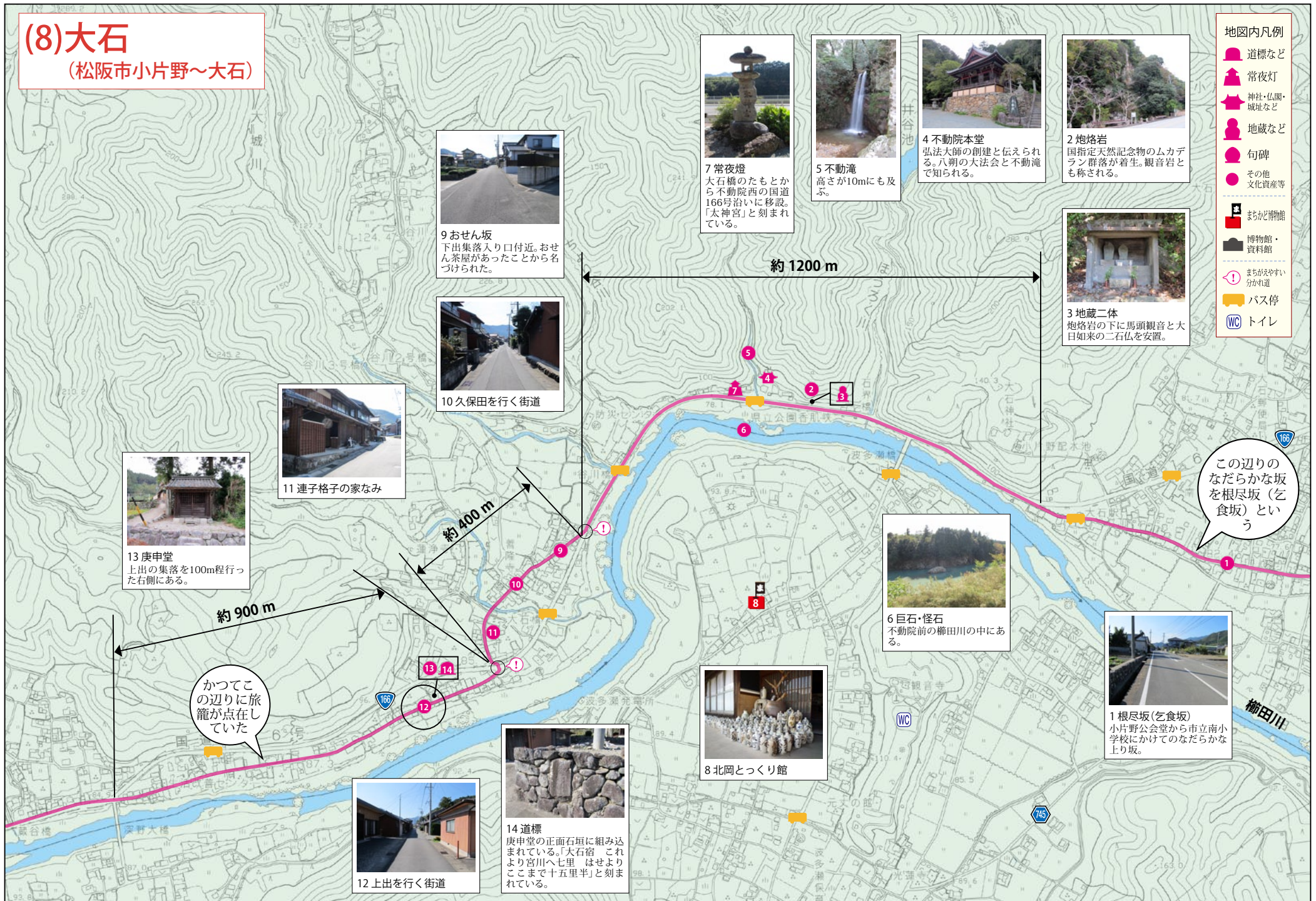
約500 m

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地蔵など
- 句碑
- その他文化遺産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ

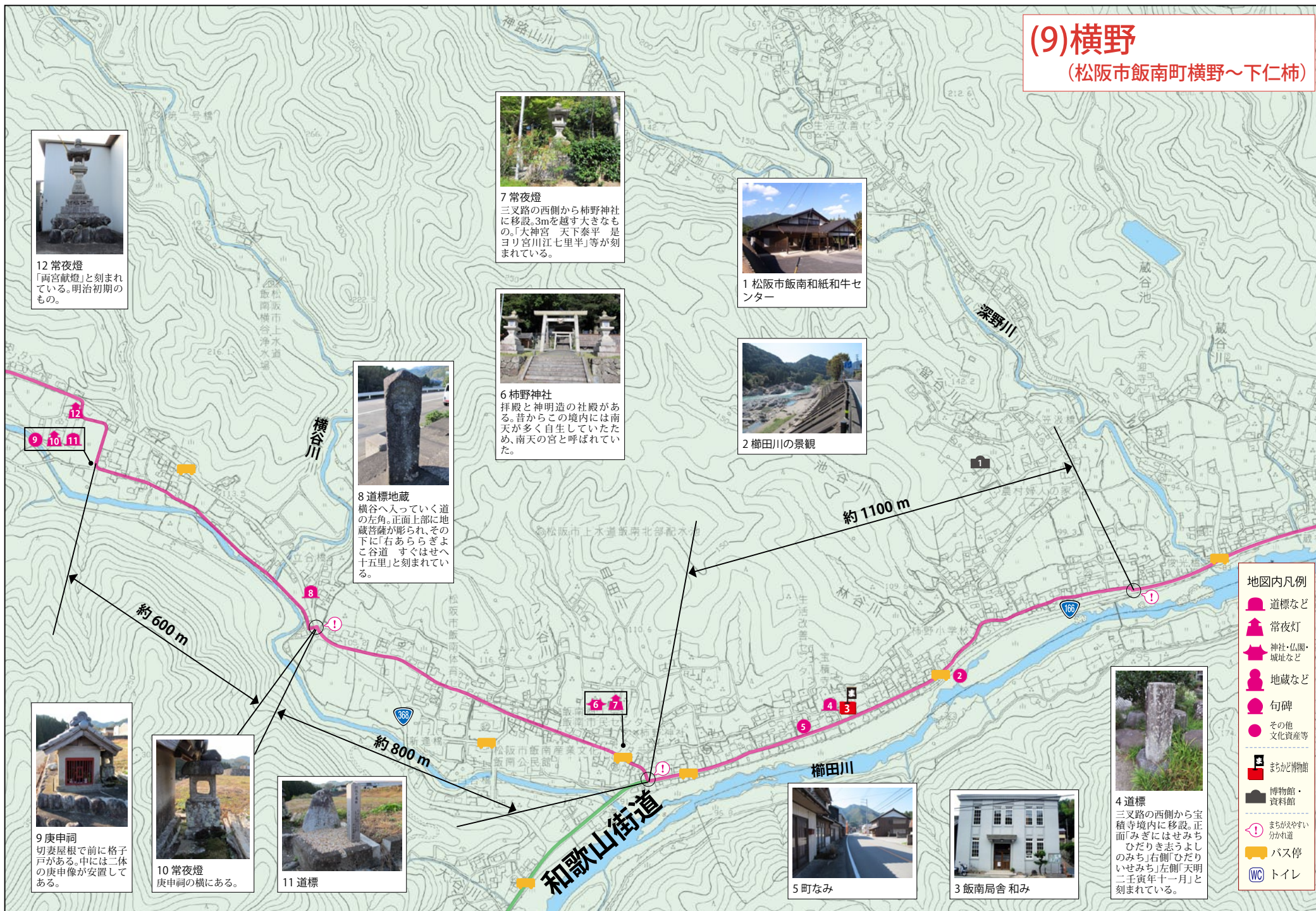
(8)大石

(松阪市小片野～大石)



(9)横野

(松阪市飯南町横野～下仁柿)



(10)長瀬

(松阪市飯南町下仁柿～上仁柿)

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地藏など
- 句碑
- その他文化遺産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ



12 道標
高福寺の石垣下「右いせ宮川へ九リ」と刻まれている。



15 美しい山村景観



13 古い屋号の家
高福寺を過ぎたあたり。大文字屋、飴屋、藤屋、質屋等の屋号があった。



14 山の神
国道左に立つ杉の木の下。



10 子安地藏の碑
天保5年(1834)と刻まれている。



11 子安地藏
子安地藏の碑から坂を上った平坦な境内地の小堂の中にある。



9 清水
岩山から湧き出る清水を桶で集めている。



7 燈籠
御堂の横。高さ1.5m。



8 常夜燈
燈籠の横。高さ1.8m。「氏子中」と刻まれ、文久3年(1863)のものである。



4 供養碑
右側杉木立の中。自然石に「南無阿弥陀仏」と刻まれている。



3 鬼瓦
昔の両泉寺の鬼瓦が境内に残る。



1 庚申碑
両泉寺前。延宝4年(1676)のもの。



2 両泉寺
元和年間に創建。境内には、大界外相碑や南無阿弥陀仏などがある。



5 弘法大師の御堂
長瀬不動尊の御堂の隣。祠の中に二基の一石五輪塔が安置されている。



6 長瀬不動尊の御堂
庄峠岩の露出する坂道の途中。妻入りの堂。

約 1200 m

(11) 櫃坂峠

(松阪市飯南町坂ノ下～津市美杉町奥立川)

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地蔵など
- 句碑
- その他文化資産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがえやすい分かれ道
- バス停
- トイレ



5 杉の美林



4 櫃坂

寛文年間(1661～73)に改修され、もとの「古坂」と対比して「櫃坂道新坂」と称された。昭和初期と平成9年にルート変更が行われており、寛文年間の道はほとんどが廃道となっている。



2 勢至菩薩像
道の左側にある。合掌する宝冠をかぶった立像。慶応2年(1866)と刻まれている。



3 井戸(清水溜まり)
勢至菩薩像のすぐ下。昔、旅人の喉を潤した。



1 道標
家並みを過ぎたあたりの道の左側。「左若宮八幡宮参道」と刻まれている。昭和八年四月に建立されたもの。



9 美しい谷川



8 不動橋
多気不動尊のそば。飯南(松阪市)と美杉(津市)の境界。



7 多気不動尊
祠と石燈籠がある。



6 茶屋「村上屋」
左側の桜の木の下。現在、廃屋として現存。

「お伊勢参りしてこわいところか、櫃坂、飼坂、鞍取坂…」と恐れられた本街道の難所の一つ

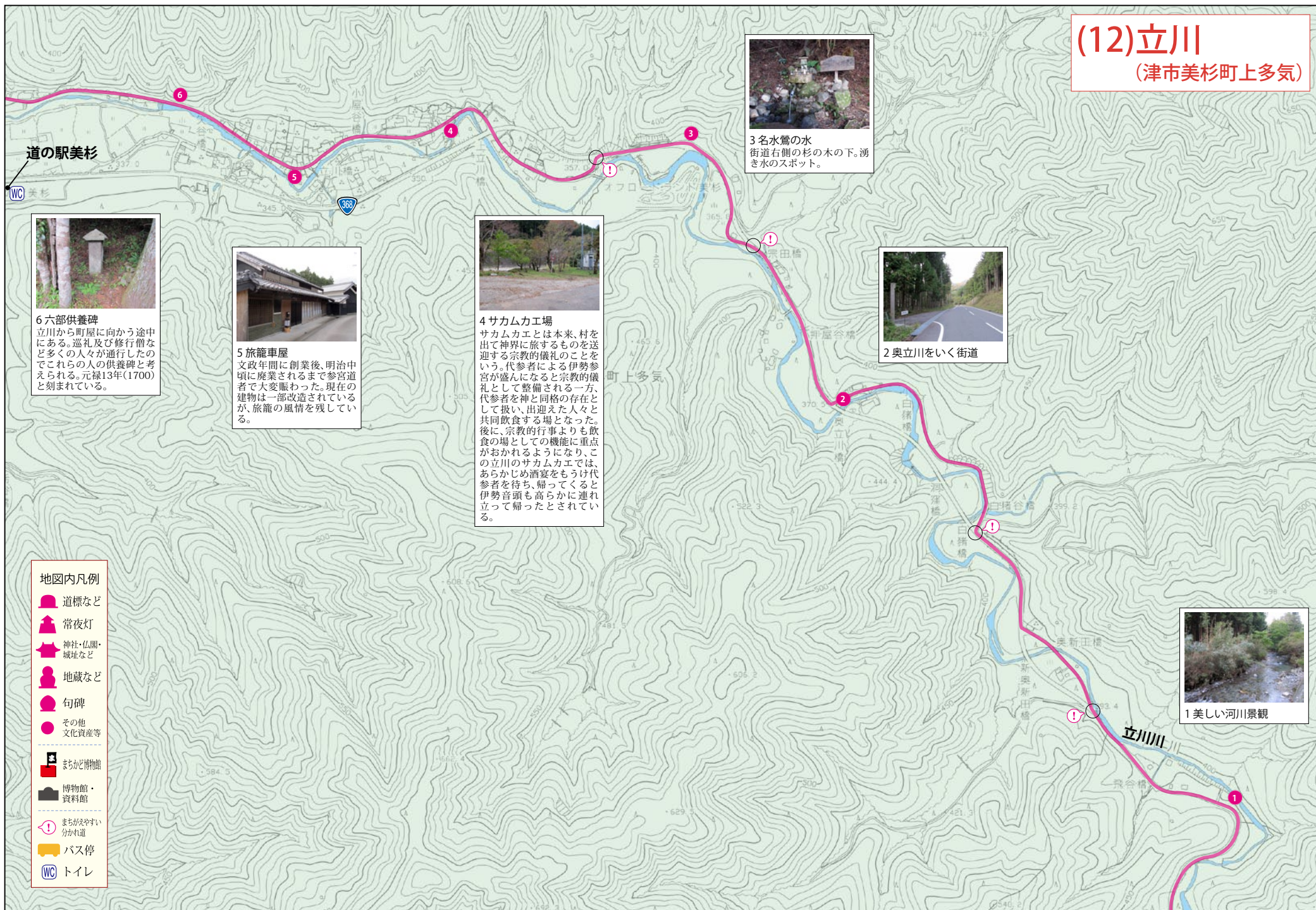
仁柿住民協議会を中心とした地区内外の人々により平成23年に復旧された

約2000m

橋を渡る

古坂道

(12)立川 (津市美杉町上多気)



(13)多気宿

(津市美杉町上多気～飼坂峠)



15 首切地藏
腰切地藏から500m下った
檜の根元。首の部分が切ら
れたかの様に割れている。
峠越えの際に犠牲となった
人達の成仏を願い、供養の
ために建立したとされる。



14 腰切地藏
大岩の横。腰の部分が
切られた様に割れて
いる。首も折れてなく
なっている。昔、山賊
が旅人を襲ったこと
を物語る。旅人の成仏
を願った。



13 峠道



12 飼坂峠
伊勢本街道で一番の難所
であったといわれる。往時
には茶屋があった。



11 津市美杉ふるさと資
料館



10 北畠氏館跡庭園
北畠氏館跡で、枯山水の
ある築山や仁王石・達磨石と
名付けられた石組みが庭園
美を作りだしている。国指
定名勝及び史跡。



9 北畠神社
伊勢国司・北畠顕能をは
じめ三卿を祀る。北畠氏館跡



4 上多気常夜燈
十字路から大橋右の馬場へ
移設。「村中安全」と刻ま
れている。元治2年(1865)の
もの。



2 大橋
欄干を木製に復元。



3 道標
大橋を渡った十字
路。「すぐいせ道す
ぐはせ道」と刻ま
れている。嘉永6年
(1853)のもの。

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・
城址など
- 地藏など
- 句碑
- その他
文化遺産等
- まちかど博物館
- 博物館・
資料館
- まちがえやすい
分かれ道
- バス停
- トイレ

国道を
横断し階段
を下る

約 1500 m



7 水路
街道脇を流れる水路。



5 聖光寺



1 結城屋旅館



8 家なみ



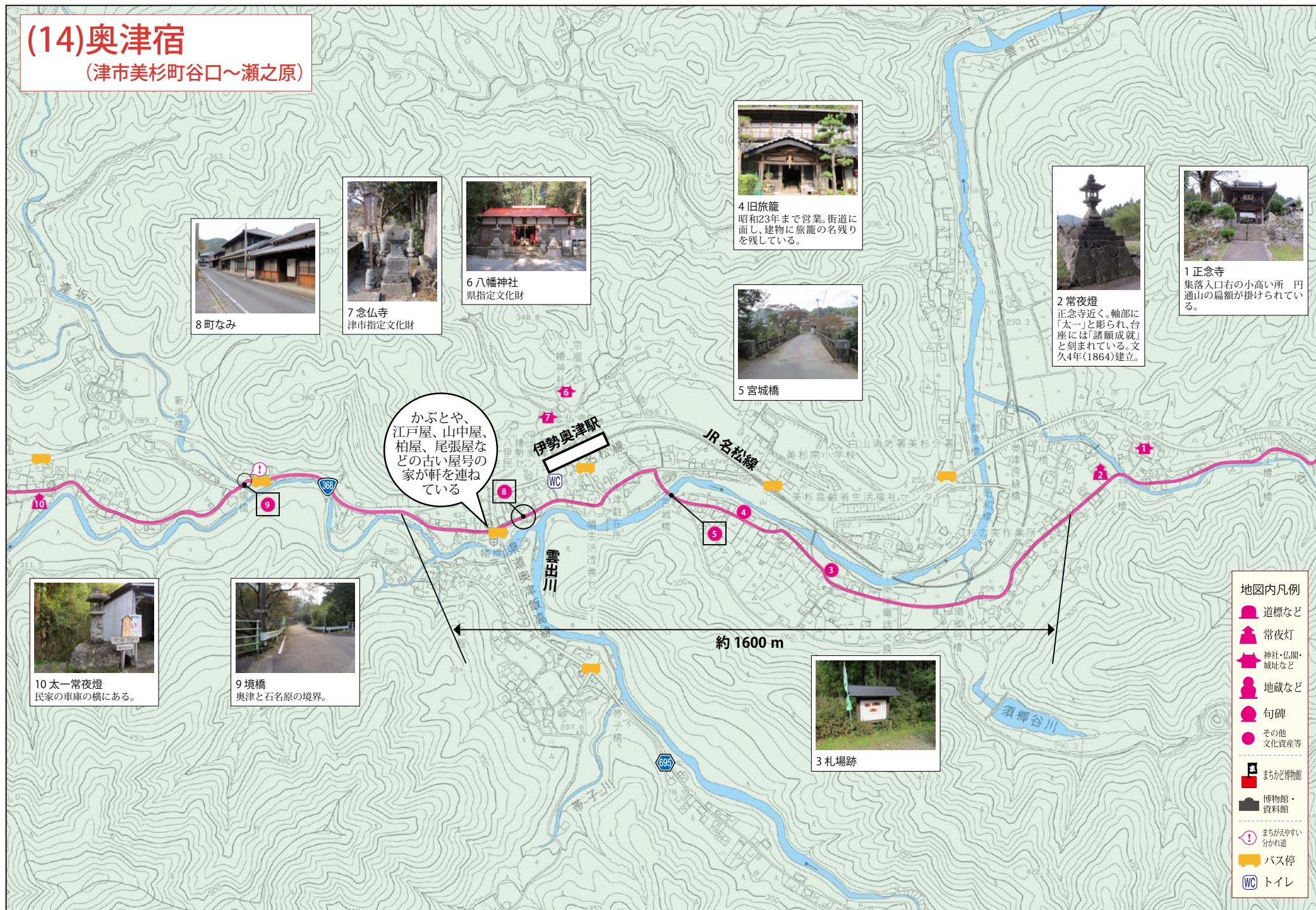
6 旅籠「三鬼屋(三木屋)」
跡

道の駅美杉

WC

(14)奥津宿

(津市美杉町谷口～瀬之原)



(15)石名原

(津市美杉町瀬之原～杉平)



9 三多気の桜
国道との合流点から約2km程、大洞山の麓に入ったところ。国指定名勝。



8 道標
三角柱の道標。「右伊賀なばり、左大和はせ」「すぐいせみち」と刻まれている。天保14年(1843)のもの。



7 常夜燈
国道との合流点から150m、弘戸(はらいど)の常夜燈と呼ばれている。文政2年(1819)のもの。



6 観音寺



5 幡須神社



3 大洞山の眺め
堀抜橋から西の方向に見える。

約 900 m

約 1300 m



11 太一常夜燈
急坂の途中、右側の石垣の上にある。天保15年(1844)のもの。



10 自然石の道標
国道の三叉路、南西角にある。「左いせみち」と刻まれている。

地図内凡例

- 道標など
- 常夜灯
- 神社・仏閣・城址など
- 地蔵など
- 句碑
- その他文化遺産等
- まちかど博物館
- 博物館・資料館
- まちがしやすい分かれ道
- バス停
- トイレ



4 常夜燈
道標から100m、石垣の中にある。文化11年(1814)と刻まれている。



1 庚申場
板橋を渡り、狭い坂道を登る途中。古いわらじがかかっている。



2 道標
自然石。「右いせみち」と刻まれている。